

現在 いま ここにある命

那覇市立首里中学校三年 富村 友美子

摩文仁の丘に向かう道
へし折られたように
途切れた木の根元
ところどころに 黒い焦げ痕

ふと思う
この木が再生することはあるのだろうか
76年前
この荒寥とした大地も 見たのだろうか
その下に張る太い根だけは
まだ 生きているようだ
その周りに広がる
まぶしいくらいの 緑色

心地よい風の中
目を閉じて平和を深呼吸する
草と土のやさしい匂い
弟の小さな手のぬくもり
プロペラ音の合間に聞こえる
鳥のさえずり
これが この島の日常
そして 悲しいほどの現実

恐れるべきは
「平和」という名のベールに
いつのまにか 視界を覆われ
「戦争の恐怖」が薄れてしまうこと
事実だけになり
人々が想像力を失ったとき
きつと戦争は繰り返される

ああ
忘れてはいけないのだ
あの事実を
悲鳴を響かせながら降りそそいだ
弾丸の雨・雨・雨：
銃声の中に消えた 希望と夢
泣くことを許されなかった子
かすかにぬくもりの残る我が子
抱き続ける母
体の一部を失った兵士
暗い壕の中で
看護を続けた少女たち
奪われていったたくさんの 命
本当に忘れてはいけないものは
事実の中に生まれた感情

苦しみ 悲しみ 怒り
すさまじいほどの恐怖

目をそらしたくなるかもしれない
それでも 見つめ続けるのだ
その恐怖を
何十年 何百年先の未来でも
決して色あせることがないように

それでも わたしたちは
ただ 懸命に 生きている
だれもかれもが
現在 いま 生きている
その瞬間瞬間は
とても 愛おしいものとなる
もう一度 全身で感じよう
草と土のやさしい匂いを：
今 生きているこの瞬間を

この過ぎゆく一瞬は
かけがえのないものだということ
戦争を知るといふことは
今を確かにいきること
みんなが この空を分かち合いながら
今を 生きている

抜けるような空の色 白い雲
そして 波打つ「礎」のおびただしさ
私は 思う
世界中の誰もが ただ今を 生きている
この世界を 分かち合う人は
みな 兄弟なのだ
この星に 張りめぐらされた
国境は だれかが 勝手に引いたもの
兄弟に 国境なんかいらぬのに：
過ぎゆく一瞬は

とてもかけがえのないもの
だれもが この空を分かち合いながら
今を 生きている
ただ それだけ

失った枝は 戻らない
でも 残った傷痕と
その下に根づいた思いは
まだ ここにある